



プレスリリース

一般社団法人 日本原子力学会

2011年3月11日に発生した東日本大震災において、多くの方々が犠牲となられ、また被災されましたことについて心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

日本原子力学会は、社会的関心の高い科学技術である原子力の広範囲にわたる学術・技術専門家集団として社会への情報提供を行うため、主要な活動等について、随時プレスリリースを行っています。

今回は、「**2015年春の年会**」開催のお知らせです。当学会では、東京電力福島第一原子力発電所事故について、その収束と今後の教訓に資するため、学術的、技術的見地から検討を行っていますが、本年会においては、各部会等における検討状況などを一般公開セッションにて行いますのでご案内いたします。

日本原子力学会「**2015年春の年会**」開催
主な一般公開セッション（入場無料）のお知らせ
3月20日～22日 茨城大学 日立キャンパス

期日：2015年3月20日（金）～22日（日）

場所：茨城大学日立キャンパス（茨城県日立市中成沢 4-12-1）

<http://www.ibaraki.ac.jp/generalinfo/campus/hitachi/>

主催：一般社団法人日本原子力学会 (<http://www.aesj.or.jp/>)

福島第一原子力発電所事故関連【一般公開セッション】A会場(E1棟10教室)

3月20日(金)

10:50～11:00 茨城大学学長挨拶、藤田会長挨拶

11:00～12:00 特別講演「宇宙線ミュオンを用いた原子炉の調査」(KEK)高崎史彦

13:00～14:30 「線量『シーベルト』の意味合いとそのとらえ方」(保健物理・環境科学部会)

- ・「実効線量」シーベルトの意味—放射線被ばくによるリスク— (原安進)岩井敏
- ・1年間に受ける線量と生涯にわたって受ける線量の解釈について (電中研)服部隆利
- ・福島事故後の防護措置の策定に関する線量 (茨城大, JAEA)木名瀬栄

14:40～16:10 「福島第一の廃炉と原子力安全への取り組み」(福島第一原子力発電所廃炉検討委員会)

- ・学会事故調から廃炉検討委員会へ (廃炉委委員長, 法政大)宮野廣
- ・事故調査委員会の提言・課題のフォロー (廃炉委分科会主査, 名大)山本章夫
- ・福島第一廃炉の現状と今後の計画 (NDF)福田俊彦
- ・福島第一の廃炉における学会の役割 (廃炉委副委員長, 東大)岡本孝司

16:20～17:50 総合講演・報告

- 「市民と専門家のギャップを越えるために—「フォーラム」の取り組み—」
(「市民および専門家の意識調査・分析」特別専門委員会/社会・環境部会共催)
- ・福島事故後における市民と専門家の認識のギャップ (関西大)土田昭司
 - ・「フォーラム」の試みと成果 (東大)竹中一真
 - ・コミュニケーション・システムとしての展望 (PONPO)木村浩

裏面へつづく

本件に関する取材等お問合せ先
日本原子力学会事務局

TEL : 03-3508-1261 / E-mail : meeting@aesj.or.jp



総合講演・報告等

3月20日(金)

- 13:00～14:30 「原子力安全分野におけるリスク情報の活用の現状と課題」(K会場)
(原子力安全全部会/標準委員会,「安全対策高度化技術検討」特別専門委員会共催)
・主旨説明 (東大)関村直人
・規制におけるリスク情報の活用 (規制委員会)更田豊志
・事業者の自主的安全性向上におけるリスク情報の活用 (電事連)尾野昌之
・総合討論
- 13:00～14:30 「核不拡散・核セキュリティにおける国際動向と日本の貢献」(E会場) (海外情報連絡会)
国際的な核不拡散及び核セキュリティの動向 (外務省)羽鳥隆
- 13:00～14:30 「とことん語る—『福島事故から4年,どんな原子力のあり方を目指すか』」(J会場)
(シニアネットワーク連絡会(SNW))
・我が国にとっての原子力の意義 (SNW)林勉
・フロアーディスカッション
- 13:00～14:30 「東海第二発電所の津波対策における倫理的側面の考察」(D会場) (倫理委員会)
・技術者倫理事例集の作成状況について (倫理委員長,東工大)大場恭子
・茨城県における想定津波の策定経緯について (茨城県)松浦健郎
・東海第二発電所の津波対策 (原電)釧田裕史
・本津波対策に見る倫理的側面の考察 (MHI)宇奈手一之
・ディスカッション
- 13:00～14:30 「原子力安全のための地震・津波防御総合技術体系を目指して—日本地震工学会と日本原子力学会の協働—」(B会場) (標準委員会)
・真の分野間協働を目指して—耐津波工学委員会の使命 (京大,電中研)亀田弘行
・原子力発電所の耐津波技術—防潮壁の耐津波性能に関する研究を例として—
(港湾空港技研)有川太郎
・原子力発電所の事故シナリオに係る脆弱性 (電中研)蛭澤勝三
・原子力発電所周辺地域における防災・減災の推進 (東大)佐藤慎司
・総合討論「地震・津波に対する原子力安全実現への『耐津波工学』として体系化するための課題」
- 16:10～18:00 「外から見た原子力学会—原子力学会への要望と期待—」(B会場) (理事会)
・原子力学会がめざす姿 (会長)藤田玲子
・エネルギーを考える立場から見た原子力学会 (ETT 代表)神津カンナ
・ジャーナリズムから見た原子力学会 (日経新聞)滝順一
・地域から原子力学会への期待—その1 (福島県)長谷川哲也(予定)
・地域から原子力学会への期待—その2 (茨城県)泉幸一(予定)
・意見交換

3月21日(土)

- 13:00～14:30 「核燃料サイクル施設におけるガラス固化技術の確立について」(A会場) (再処理・リサイクル部会)
・六ヶ所再処理工場におけるガラス固化試験の結果について (日本原燃)大久保哲朗
・新型ガラス溶融炉の開発状況について (日本原燃)兼平憲男
・総合討論
- 13:00～14:30 「リスク評価手法の拡張と充実への取り組み」(A会場) (標準委員会(リスク専門部会))
・リスクマネジメントの遂行における当専門部会の役割 (東大)山口彰
・リスク専門部会の今までの活動と課題分析 (関西電力)成宮祥介
・核燃料サイクル施設のリスク評価 (JAEA)吉田一雄
・討論:リスク評価が使われるためにリスク専門部会はどうあればよいか?

本件に関する取材等お問合せ先

日本原子力学会事務局

TEL : 03-3508-1261 / E-mail : meeting@aesj.or.jp



- 13:00～14:30 「パネル討論:原子力オープンスクールの取り組みと展望」(L会場)
(広報情報委員会オープンスクール小委員会)
- ・原子力オープンスクール開催の現状(オープンスクール小委員会委員長,東工大)井頭政之
 - ・東北支部の取り組みと展望(東北大)藤原充啓
 - ・関東・甲越支部の取り組みと展望(東海大)吉田茂生
 - ・関西支部の取り組みと展望(福井大)泉佳伸

3月22日(日)

- 13:00～14:30 「高温ガス炉の安全性について」(H会場)
(「高温ガス炉の安全設計方針」研究専門委員会/熱流動部会共催)
- ・「高温ガス炉の安全設計方針」研究専門委員会の概要(電中研)植田伸幸
 - ・高温ガス炉の安全要件1)放射性物質の閉じ込め(JAEA)大橋弘史
 - ・高温ガス炉の安全要件2)原子炉の停止(富士電機)大橋一孝
 - ・高温ガス炉の安全要件3)炉心からの除熱(東大)岡本孝司
 - ・高温ガス炉の安全要件4)水素製造等の熱利用(JAEA)西原哲夫
- 13:00～14:30 「原子力プラントの継続的な安全性向上対策採用の考え方(その2)」(L会場)
(標準委員会(システム安全専門部会,リスク専門部会合同))
- ・総合的,俯瞰的な安全性向上のための意思決定の考え方(東大)越塚誠一
 - ・安全性向上対策の採用に係る意思決定プロセスの在り方と課題(電中研)山下正弘
 - ・安全性向上の対応策を講じる際の意思決定の実施手順の提案(例示)(長岡技科大)鈴木雅秀
 - ・総合討論
- 13:00～14:30 「高専における原子力人材育成活動」(F会場)(教育委員会)
- ・高専機構の教育の現状とこれまでの原子力人材育成への取り組み(舞鶴高専)太田泰雄
 - ・国際原子力人材育成イニシアティブ事業について(富山高専)高田英治
 - ・廃止措置人材育成への取り組み(福島高専)鈴木茂和
 - ・長岡技科大における高専の原子力人材育成との連携(長岡技科大)鈴木達也
- 13:00～14:30 「日本原子力学会女性会員数増加のための提言」(I会場)(男女共同参画委員会)
- ・日本原子力学会における女性会員の現状分析と他学協会等の取組紹介(JAXA)塩満典子
 - ・日本原子力学会女性会員数増加にむけた取組・提言(男女共同参画委員長,規制庁)小林容子
 - ・全体討論

※ その他のセッションについては、当学会「2015春の年会」HPをご覧ください。

http://www.aesj.or.jp/meeting/2015s/j/15Spr_program20-42.pdf

年会を取材される報道機関の皆様へ

本年会の取材をご希望の際は、以下の手順でお手続きをお願いいたします。

1. 年会総受付(2号館1階21A)へお越しいただき、受付担当者へ名刺をお渡しください。
2. 「取材申込用紙」に氏名・社名、取材を希望されるすべてのセッション名(または会場名)をご記入ください。
3. 「報道関係者」の名札をお渡します。名札を必ず付けて、取材希望セッション会場へお入りください。
4. 会場へ入られましたら、取材を開始する前に、当該セッションの座長またはセッション担当者・関係者へ必ず取材の許可を得てください。また、同会場で複数のセッションを取材する場合は、その都度当該セッションの座長またはセッション担当者・関係者へ必ず取材の許可を得てください。
個別の講演・発表として取材される際は、必ず各講師・登壇者および座長へ取材の許可を得てください。
会場内では、参加者のプライバシーへのご配慮をお願いいたします。
5. 取材が終了されましたら、総受付へ名札を返却してください。

ご協力をよろしくお願い申し上げます。

本件に関する取材等お問合せ先
日本原子力学会事務局

TEL : 03-3508-1261 / E-mail : meeting@aesj.or.jp